

特別支援教育コーディネーター連絡会議

6月6日(木)、「第1回 特別支援教育コーディネーター連絡会議」を行いました。東部教育事務所の梅村佳絵 特別支援教育指導員を講師にお迎えしました。市内小中学校の特別支援教育コーディネーターの先生方が参加しました。

①コーディネーターの役割②人を「つなぐ」こと、人と「つながること」③ケース会議の効率化等について、梅村よりお話いただきました。



①コーディネーターの役割



梅村先生

自校の先生方だけでなく、**地域の特別支援学校の担当者や他校のコーディネーター**とも気軽に情報交換できる関係の構築が大切です。

「学校内の関係者との連絡調整、外部の関係機関との連絡調整、保護者に対する相談窓口等、コーディネーターの先生方には**様々な役割があります。**」

指導講話 コーディネーターの役割について確認される先生方

②人を「つなぐ」こと、人と「つながる」こと



梅村先生

先生方に「**何をして？どうなった？**」と、指導結果を振り返る視点を示しましょう。会議では、**何をやるかまで決めておく**ことがポイントです。

「(1)〇〇なつまづきがあったので(課題)、(2)〇〇な支援をしたところ(支援)、(3)〇〇になった(成果・課題)を確認し、**その後の計画につながる**ようにします。」

「ケース会議等では、ゴールの姿を記し(例：黒板に『〇〇さんの飛び出しへの対応』と書いておく)、**途中で(曖昧なまま)終わらない**ようにします。」

③ケース会議の効率化(事例を通したワークショップを行いました。)

事例：こだわりが強く、変更が苦手Aさん。予行練習までは参加できたが、本番当日の日曜日はパニックになってしまった。



梅村先生

①想定される原因(仮説)を**可能な限り予想する。**

「いつもは制服なのに運動服を着させられた」「好きなアニメが見られない」等

②仮説や根拠に基づいて取捨選択し、原因を**特定する。**

「カレンダーは読める。そもそも日曜日に登校する意味が分からなかったのでは」等

③特定された原因をとりのための**指導方法を考える。**

「日曜日=必ず休みの概念をなくす。登校する日に○、休みの日に×をつける」等

「**子供の立ち位置**から起こっている事象を捉えてみると、事例の本質が見えてきます。また、**複数のメンバー**で意見交換することで、思いがけない視点に気付くこともあります。」

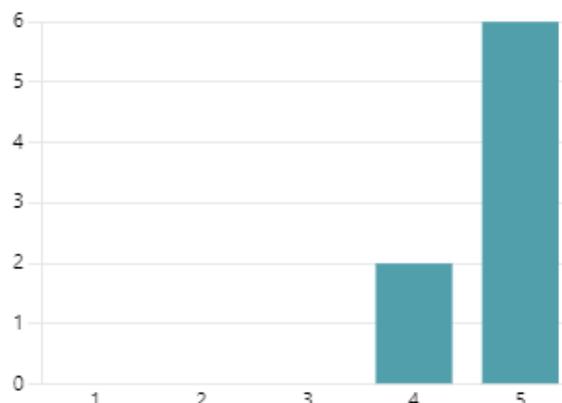
このように多岐にわたり、教えていただきました。

5 事後アンケートより (8名回答)

3. 本日の研修の満足度を星の数でお答えください。(0点数)

[詳細](#)

4.75
平均評価



受講者の感想 (指導講話を聞いて)

ワークショップで具体的な対応例を体験できたことがよかった。

梅村先生に紹介して頂いた本が、いま自分が学校に欲しい「校内研修」がテーマの本だったので大変ありがたかった。

梅村先生のご講話を聞いて、コーディネーターの役割を再認識し、外部関連機関、保護者との繋がり的重要性を感じました。また、ワークショップにより、様々な意見を共有できたので、できることを学校で取り組んでいきたいです。

梅村先生の講話の中に演習があったことで、いろいろな見方があることがよく分かりました。

梅村先生のご講義の中でのワークショップがよかった。

特別支援教育コーディネーターの役割について、再確認することができた。

コーディネーターの仕事が初めてのため、ワークショップを交えた講義が大変参考になりました。これからの業務に生かしていきたいと思います。

梅村先生の指導講話では、ケース会議の進め方を体験し、複数の意見をシェアしあうことの有効性を改めて感じる事ができました。紹介していただいた書籍もぜひ活用したいです。